道内各地の活動状況

「札幌雪偶プロジェクト、年に一回活動中」

札幌雪偶プロジェクト　代表　山内絵里

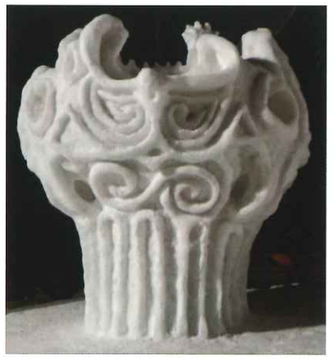
私達札幌雪偶プロジェクトは「札幌雪まつりの大会場で土偶の大雪像を造り、世界へ縄文文化をアピールする」ことを目標に活動しています。2017 年 1 月から活動を開始し、目標への第一歩として市民雪像枠で 2m 程度の“雪偶”を制作。有志からなるメンバーは毎年 10 名前後で、3 年連続で参加している人もいるせいか、技術レベルも徐々に向上してきています。

1 年目はカックウ、2 年目は遮光器土偶、3 年目は火焔土器を制作。「カックウはイケメン。制作者は女性で理想の男性をイメージしたのでは?」「遮光器土偶は手足がキュート」「火焔土器の文様はよく見るとパターンがある」等、制作を通して改めて気付く点も多く、縄文人の心に少しだけ近づけた気持ちになります。道行く人の反応を見るのも楽しく、極寒の中で楽しく制作しています。

今年も市民雪像の抽選会に応募予定。もし当選できたら、次は合掌土偶やハート型土偶あたりを作ろうかと考えています。応援のほど、どうぞよろしくお願いいたします!

▲「発掘！中空土偶」（2017・冬）

▲「しゃこちゃん札幌観光中」（2018・冬）

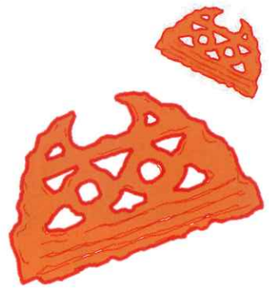


▲「燃えよ！火焔土器」（2019・冬）

縄文よもやま話

縄文人と赤

縄文時代の遺跡からは、鉄を主成分とするベンガラや水銀を主成分とする朱といった赤色顔料で彩色された土器や土偶などが出土することがあります。赤彩土器にはつくりの丁寧なものやドーナツ状、注口付きなど特殊な形状のものがあり、何らかの祭祀や儀礼に使われたと考えられます。お墓の底にベンガラがまかれていることもあります。縄文人にとって、赤い色をした太陽や炎、血液などは死と再生の象徴であり、日々の暮らしを赤で彩ることにより、新たな生命力を得ようとしたのでしょうか。



道外の縄文の構成資産から

～小牧野遺跡（青森県）～

縄文後期前半（紀元前 2，000 年頃）の、大規模な環状列石を主体とする遺跡です。土地の造成や多量な石の運搬・設置など、縄文時代の土木工事の実態や当時の精神生活や社会構造、墓制等を知る上で重要な遺跡です。

この環状列石の外帯と内帯は楕円形の石を縦に置き、その両側に平らな石を数段積み重ねて石垣を築くように並べられています。このような形態の列石は全国的に見ても珍しく、「小牧野式」配列とも呼ばれています。

環状列石に隣接する墓域や捨て場を中心に、土器や、石器など日常的に使用されている道具のほか、土偶や三角形岩版をはじめとする祭祀的色彩の強い遺物も出土しています。

会員メッセージ

北の縄文道民会議　会員　斉藤　満

6 年前頃に新聞で縄文フォーラムが札幌市内のホテルであるのがわかり参加致しました。自分は早めに入りましたが始まる頃は席が全て埋まっていました。今考えると國學院の小林達雄先生の基調講演があるので大勢の方が参加したのではないかと思われます。

知事の挨拶のあと小林先生の講演があり「縄文土偶の世界」土偶について多くのことを話されましたが最後のほうに世界遺産登録はそんな遠くないうちに決まるのではと参加者が喜ぶ話をしていました。私はそのことがすごく印象に残りました。

会場出口で NHK の女性記者にインタビューを受け縄文を始めたきっかけは何だったのですかと聞かれ三内丸山遺跡に行った時からですとそれだけ話しました。

翌日朝からテレビの北海道版で縄文フォーラムの様子が二度流れ私のインタビューが最後に何秒間か映りました。その日は朝から友人等から電話が多くあり縄文のことを勉強しているとは思わなかったなどと多くの事を聞かれ大変な目に逢いました。これを機会に縄文のことを勉強するいいチャンスではと考えこの会に入りました。

考古学の本を探しているうちに菊池徹夫先生の「考古学教室」を探しあて考古学を勉強する入門書で分かりやすく大変参考になりました。今でも愛用しています。それと同時に新聞やチラシで縄文の講演会、勉強会、その他探しましたが縄文遺跡群の世界遺産登録を目指すための講演会等が多くあることが分かり出来る限り参加致しました。

縄文全体の流れを知るために何度か北海道立埋蔵文化センターに出向きました。分かりやすい陳列のお陰で頭に多くの知識を入れる事が出来ました。また道内の遺跡見学などは、自分の車がありませんので縄文の旅のバスツアーを多く利用して見学勉強する事が出来ました。

四年位前からは道外は自分の足で行こうと思い、東北三年連続で青森、盛岡、仙台、山形などを見学し、長野県の十日間（約 30 箇所）、東京、横浜（上野博物館、明治大、國學院大ほか）、新潟県は交通の不便さなどで縄文の旅のツアーに参加し、火焔街道（六市町で連携）での国宝の火焔型土器（十日町市）などを効率よく見ることができ感動さえ覚えました。

今 73 歳ですが 80 歳位までは道内外を動き回り縄文の世界を楽しく学び続けたいと思います。縄文群の世界遺産登録が近い事と思いながら・・・。